

劇  
場  
を  
つ  
く  
る  
ラ  
ボ  
2  
0  
2  
2

PAPER?  
かみ?

福祉施設での  
上映会とワークショップ

# 「PAPER? かみ？」

記録集

THEATRE  
for  
ALL LAB



## はじめに

私たち、一般社団法人ドリフターズ・インターナショナルは、「THEATRE for ALL」というバリアフリーなオンライン劇場を起点に「劇場をつくるラボ」事業を2021年から実施してきました。当事業は、福祉施設へ鑑賞体験を届けることを目的に活動を重ねています。

本書は「劇場をつくるラボ」の中で、特に2022年度に行った福祉施設での上映とワークショップを行うためのプロジェクト「PAPER?/かみ?」の活動をまとめた報告書です。全国4ヶ所＋特別編2ヶ所での実施例を紹介すると同時に、障害のある方々と共に行う上映会やワークショップを実施する際のヒント集になることを願って作成しました。

映像の作り手、上映環境を考える専門家、ワークショップデザイナー、福祉施設の職員、そして参加者である障害者の方々など、様々な人の手で本プロジェクトは育って参りました。

それぞれの視点からの気づきや意見などを改めて確認しながら、「鑑賞体験を届ける」とはどういうことか、どういった配慮が必要なのか、どういった工夫があると良いのかなど具体的な点を見返しながら、読んでいただく方の個別の状況に役立てていけますよう、そして、劇場があまねく誰のもとにも届いていくことを願って、本書を纏めたいと思います。



撮影=米津いつか(上)、たんぼぼの家(下)

## イントロダクション

- 03 はじめに
- 05 福祉施設での上映会とワークショップ「PAPER?/かみ?」について
- 08 福祉施設での上映会とワークショップ「PAPER?/かみ?」の流れ
- 09 福祉施設での上映会とワークショップ「PAPER?/かみ?」を進めた人たち

## アニメーション制作

- 10 『PAPER?/かみ?』ができるまで
- 13 オリジナルアニメーション『PAPER?/かみ?』
  
- 18 特別上映1 | 「まるっとみんなで映画祭 2022 in NASU」での上映
- 20 あなたもやってみよう『PAPER?/かみ?』上映会とワークショップ

## 上映ワークショップ

### 実施レポート

- 22 **印旛福祉会 いんば学舎・陣屋**  
| 上映ワークショップ実践レポート  
| 課題や発見のふりかえり  
—
- 28 **たんぼぼの家 アートセンターHANA**  
| 上映ワークショップ実践レポート  
| 課題や発見のふりかえり  
—
- 34 **ほっちのロッヂ お出かけDAY!**  
| 上映ワークショップ実践レポート  
| 課題や発見のふりかえり  
—
- 40 **愛成会 メイプルガーデン**  
| 上映ワークショップ実践レポート  
| 課題や発見のふりかえり

- 46 特別上映2 | NPO法人リベルテのメンバーのための上映

## アウトロダクション

- 47 報告会「劇場をつくるラボ」とはなにか? —— 2022年度の取り組みをふりかえって
- 56 THEATRE for ALLとは

## イントロダクション

# 福祉施設での 上映会とワークショップ 「PAPER?/かみ?」について

金森 香

(一般社団法人ドリフターズ・インターナショナル/THEATRE for ALL 事務局)

## 劇場をつくるラボについて

「THEATRE for ALL」は、字幕・音声ガイド・手話・多言語対応等のついた映像作品を制作して配信したり情報発信していますが、「劇場をつくるラボ」は、実際に映像作品を上映することで福祉施設の現場では何がおきるのか? 「劇場」= 鑑賞体験を生み出すにはどうしたらよいのか? という問いからスタートし、2021年から実施してきました。

2021年の様子

撮影=内田伸一郎



初年度は、おもに劇場の環境づくりの面からのアプローチで、鑑賞に際しての物理的設定やコミュニケーションを考えるとところからの取り組みでした。コロナ禍で訪問ができない厳しさがあったものの全国各地の福祉施設の方々のご理解や支援を得て、建築家の山川陸氏をディレクター含めたクリエイターチームが主導する形で、知的障害のあるの方々がいる全国4ヶ所の施設での上映を計画しました。施設職員の方々と話し合いながら、それぞれの生活環境や習慣に合わせて作品選定を行い、プロジェクター、タブレット、スピーカーなどの機材を個々のフィードバックを得ながら独自の設置方法を施設ごとに編み出しました。

### 上映会とワークショップ「PAPER?/かみ?」について

本年は、そこから生まれた問いや課題である「そもそも知的・発達障害のある方を鑑賞者として想定した作品とはどういったものであるのか?」という問いの答えを探す1年でした。蓮沼執太氏(音楽家)と水尻自子氏(映像作家)、そしてワークショップ開発に梅原徹氏(音楽家・美術家)を迎え、福祉施設での日常に目を向けながら、当事者も介助者も、誰もが共に過ごす時間が生まれることを目指し、まずは映像作品の創作に取り組むところからスタートしたのです。

蓮沼氏はこれまでも「楽器ではない日常の音」に注目してきた音楽家ですが、今回は、福祉施設にいる重度の知的障害のある方々と共に、紙やピンポン球や傘などを使って出てくる音に耳を傾けるところから創作を始め、映像作家の水尻氏は施設での生活で出くわすリアリティのあるオブジェクトや現象に着目して触感を感じさせるシークエンスを独自のアニメーション表現で追求しました。こうして生まれた映像作品を改めて福祉施設で上映するにあたっては、音楽家であり初年度のクリエイターチームにも名を

連ねていた梅原徹氏と共に「劇場」のあり方を探るべく、より立体的に鑑賞できるような体験づくりを模索することとなりました。

2023年度は福祉施設やイベントでの上映会など含め、各地で合計4回のワークショップつきの上映会を行うこととなりましたが、それらを形作る中で私たちが発見したのは、手触り、音の感触、時間の流れ、などを含めて、より全身運動として映像の鑑賞体験を捉えるような意識や時間の作り方が重要であるという点です。鑑賞しているのは目や耳だけではなく、手や体、周囲にいる人との関与、といった全体であるということです。

今年度のひとつの目標は、本年の実践をもとに、誰でも独自に上映会を実施できるようなある種のレシピを作ることでした。果たしてそのような体系化が望ましいことなのか、という逡巡が生まれる程にそれぞれ上映会は多彩でした。

結果として、今年度のプロジェクトから導き出された最も重要な点は、いつも施設利用者の方々や接している施設職員のみならず、誰もが、どんな一言やどんな時間の作り方が必要か深く理解をしていて、クリエイティブなアプローチを生み出すということです。今年開発した上映+ワークショップの形態が、それぞれの施設や現場で関わってくださった施設職員やスタッフの方々の個別の独創性を引き出す装置となったのかもしれませんが。

本報告書を読み解いていただく中で、こうした活動を自主的に実施してみよう!という個々のアイデアにつながるようであれば幸いです。



# 福祉施設での 上映会とワークショップ 「PAPER?/かみ?」の流れ

	<u>アニメーション制作のためのワークショップの実施</u>	
2022年8月24日	印旛福祉会 いんば学舎・陣屋(千葉)	→p.10
2022年9月-10月	<u>アニメーション制作</u>	
2022年10月下旬	<u>アニメーション完成</u>	
	<u>福祉施設での上映会</u>	
2022年10月28日	社会福祉法人 印旛福祉会 いんば学舎・陣屋(千葉)	→p.22
2023年1月7日	社会福祉法人 わたぼうしの会 たんぼぼの家 アートセンターHANA(奈良)	→p.28
2023年1月21日	ほっちのロッジ お出かけDAY!(長野)	→p.34
2023年3月17日	社会福祉法人 愛成会 メイブルガーデン	→p.40
	<u>ふりかえりトーク</u>	
2023年4月21日	オンラインにて実施	→p.47
2023年5月末	<u>記録集完成</u>	

# 福祉施設での 上映会とワークショップ 「PAPER?/かみ?」を進めた人たち

映像制作メンバー



**蓮沼執太**  
(音楽家)  
オリジナルアニメーション  
『PAPER?/かみ?』の  
音楽を担当



**水尻自子**  
(映像作家)  
オリジナルアニメーション  
『PAPER?/かみ?』の  
映像を担当

ワークショップ開発メンバー



**梅原 徹**  
(音楽家・美術家)  
音響・コミュニケーション  
プログラム担当として  
上映ワークショップの  
ファシリテーターをつとめる



**米津いつか**  
(アートマネージャー・  
コーディネーター)  
映像制作コーディネートから  
上映ワークショップ実施の  
コーディネートを担当

企画・制作メンバー



**金森 香**  
(一般社団法人ドリフターズ・  
インターナショナル/  
THEATRE for ALL 事務局)



**和久井 碧**  
(株式会社precog  
〈THEATRE for ALL事務局〉  
プロジェクトマネジメント)

上映会パートナー

社会福祉法人  
印旛福祉会  
いんば学舎・陣屋  
| 山田暁弘(施設長)  
| 一ノ宮敏江

社会福祉法人  
わたぼうしの会  
たんぼぼの家  
アートセンターHANA  
| 佐藤拓道(副施設長)

ほっちのロッジ  
| 唐川恵美子  
| (まるっとみんなの調査団)

社会福祉法人 愛成会  
メイブルガーデン  
| 青木 信  
| 川久保州子

# 『PAPER?/かみ?』ができるまで

文=米津いつか  
撮影=南阿沙美

「劇場をつくるラボ2022」は、音楽家の蓮沼執太さんと映像作家の水尻自子さんによるオリジナルアニメーションの制作に向けて2022年の夏に始動しました。『PAPER?/かみ?』と題した映像作品ができるまでの様子をご紹介します。

## アーティストが福祉施設へ



音楽家の  
蓮沼執太さん(右)と  
映像作家の  
水尻自子さん(左)

2022年8月24日、蓮沼執太さん水尻自子さん、そして昨年の立ち上げから「劇場をつくるラボ」に関わっている梅原徹さんたちと、千葉県印西市の「社会福祉法人印旛福祉会」が運営する知的障害のある方たちが通う「いんば学舎・陣屋」を訪れ、ワークショップを行いました。

まずはじめに、音楽療法担当の職員さんが中心となって曲に合わせて体を動かし、ウォーミングアップ。体があたたまったところで、みんなで音を出してみます。この日用意したのは、霧吹きやビニール袋、段ボール、傘、ピンポン球といった身近なもの。日常生活で触れているものを使うことで、楽器ではなくても音を出す喜びを実感してもらうことが狙いの一つでした。

## 音を出す様子を観察する

ピンポン球は「せーの」の声に合わせて落としてみたり、傘は開い

たり閉じたり、合図に合わせて振ったり。ビニール袋は、膨らませてから叩いたり。段ボールはこすって、叩いて、みんなでリズムを合わせたりしました。大きな障子紙はパンチして音を出したり、大興奮！霧吹きは、振ってもシャカシャカと音がします。

職員の方にサポート  
いただきながら、同時に  
傘を開いたりする様子



大きな障子紙は  
大胆に破られました



蓮沼執太さんと一緒に  
霧吹きで音を出す  
梅原徹さん(左)



最後に、水尻さんが過去につくった映像作品に合わせて音を出してみます。気に入った物を手に持ち映像と合わせようとする人や、ひたすら霧吹きを振り続ける人。段ボールを膝の上に乗せてお気に入りの楽器のように抱える人。映像に合わせるという動

作は少し難しそうでしたが、どんなことであれば障害があってもやりやすいかなど発見もあった時間でした。

### 施設での体験を咀嚼して映像作品に

ワークショップを終えてすぐに、約2ヶ月のアニメーション制作がスタートしました。ワークショップでの体験や、メンバーたちの反応を踏まえて、蓮沼さんと水尻さんが手を動かし、意見を交わしながら進められました。映像が先というわけでも音が先というわけでもなく、動きやモチーフのアイデアが水尻さんから共有され、同時にテンポマップとなるデモ音源が蓮沼さんから送られるという具合です。

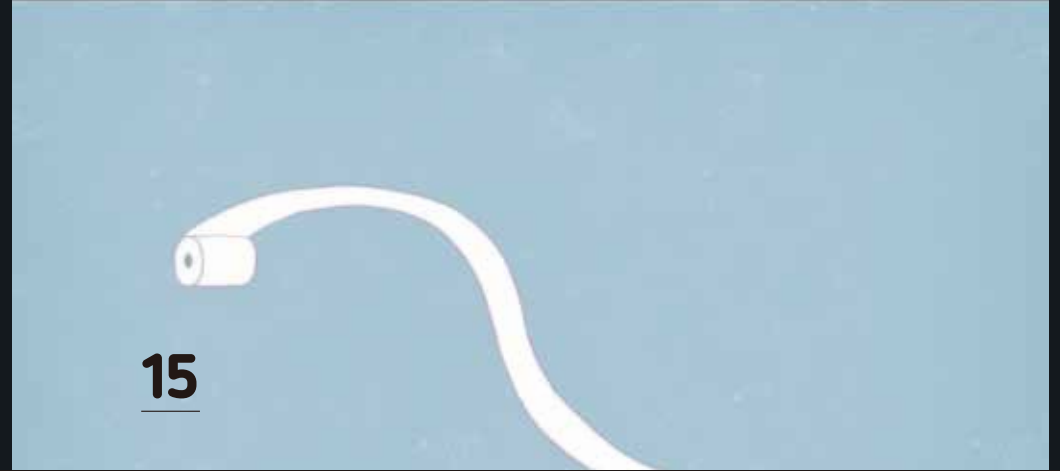
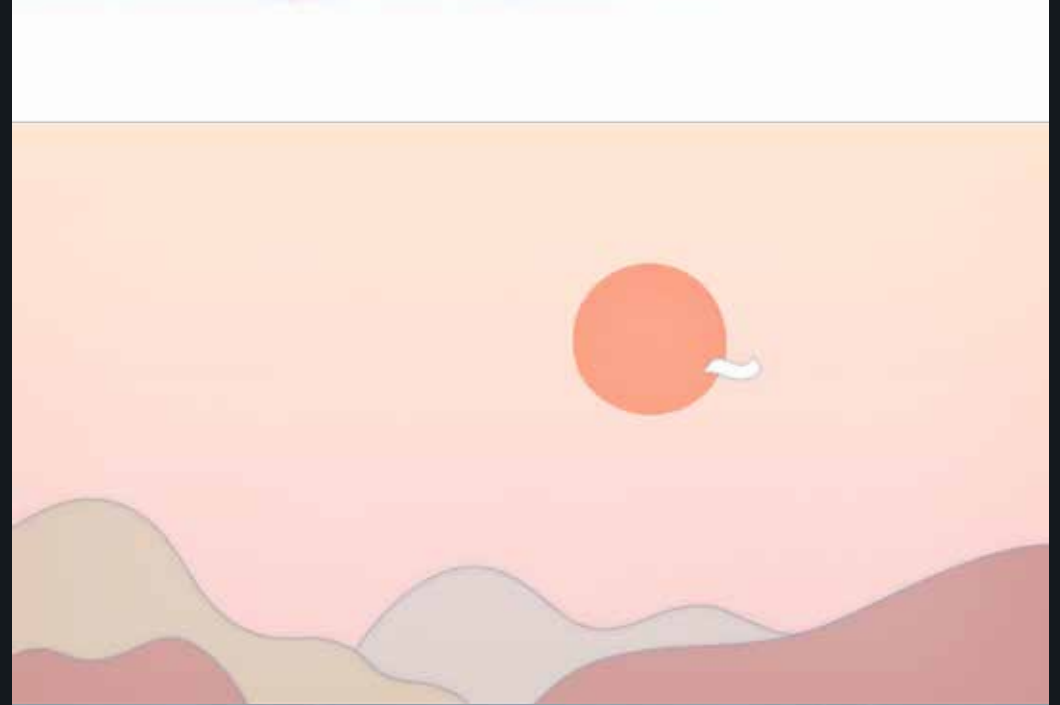
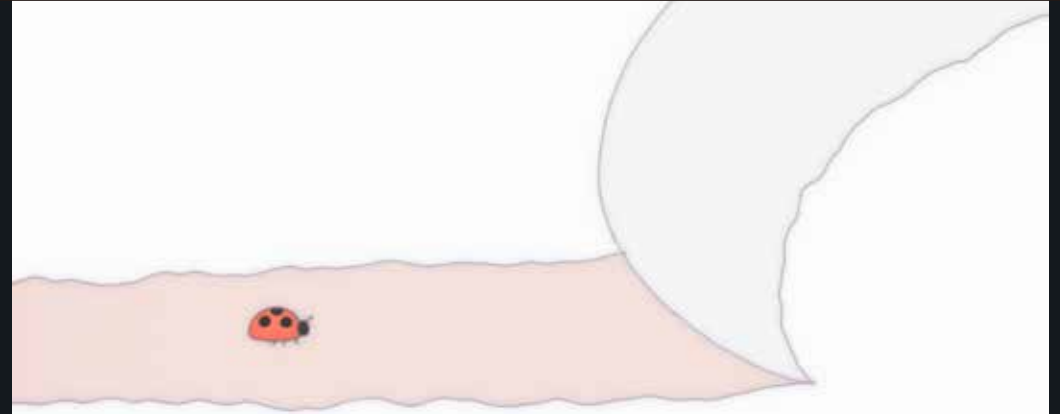
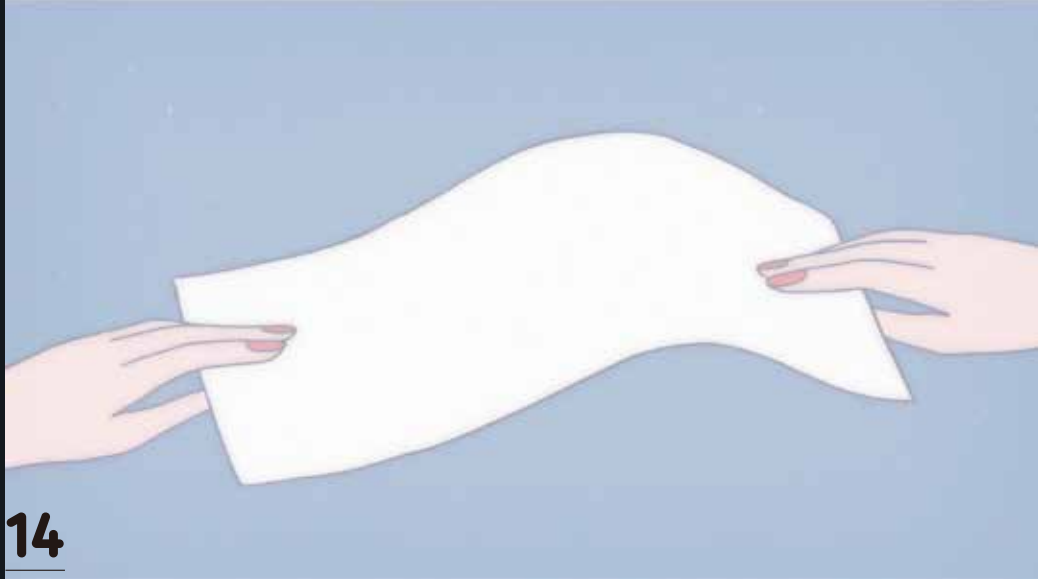
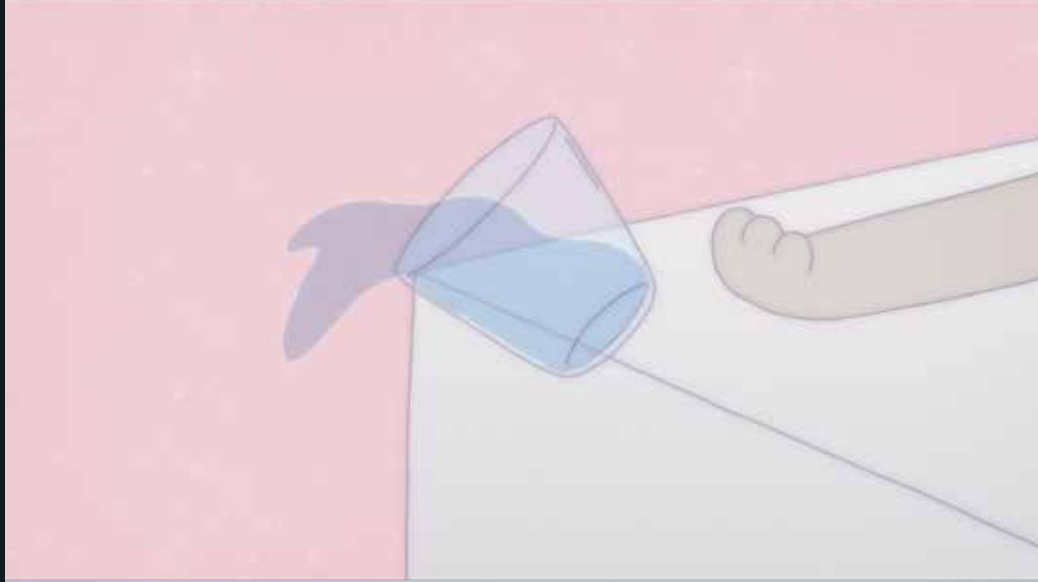
蓮沼さんが担当した音楽には、紙を使った音源が使われました。水尻さんのアニメーションには、日常生活で目にするような物や動作が描かれ、ワークショップを通してポイントになっていた物や動きが取り入れられていきました。また、「劇場をつくるラボ」として、完成した映像をただ見るだけでなく、どのような鑑賞体験がありうるのかということも同時に考えていきました。

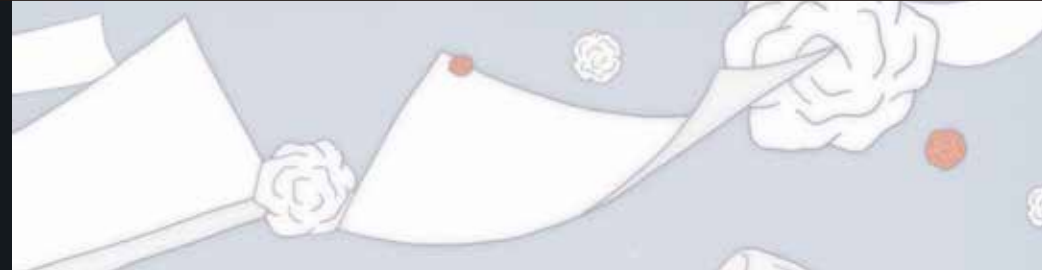
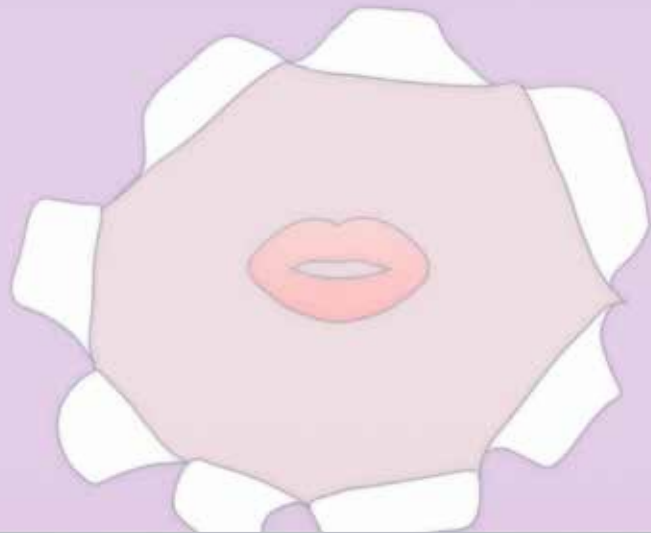
制作も終盤を迎える頃、蓮沼さんは作品タイトルを『PAPER?/かみ?』と命名しました。身近でかつ事前ワークショップでも印象的だった「紙」というモチーフを前面に出しながらも、形象を限定せずに考えることを促すメッセージが込められています。



PAPER?  
かみ?







音楽  
蓮沼執太

映像  
水尻自子

映像を見る



### 制作者コメント



蓮沼執太

楽器ではない「物」に触れて、音を出していく試みでした。「物」への触れ方が違うだけで、いろいろな音生まれていく。楽器を使って音楽を奏でる、というアプローチではなく、原始的に音を出す、聞く、感じる、という試みができたと思います。この全体的なコンセプトを水尻さんの映像作品ととても良い温度感で制作が出来たことは素晴らしい体験でもありました。



水尻自子

障害のある方々も楽しめるということを前提に作品を作るのは初めてでしたが、自分の作風である感動的な動きを活かしながらリズムカルで音楽とともに楽しめる作品になるように意識して制作しました。

## 「まるっとみんなで映画祭 2022 in NASU」での上映

『PAPER?/かみ?』は、千葉のいんば学舎・陣屋でのお披露目から約1週間後、栃木県的那須で開催された「まるっとみんなで映画祭 2022 in NASU」で、一般にも公開されました。11月5日に行われた「夕暮れ森のシアター」という屋外での上映会で、オープニング作品として上映されました。会場となったGOOD NEWS NEIGHBORSに集まった人たちに、カラフルな紙を配ります。ファシリテーターの梅原徹さんに誘われ、映像が始まると積極的にマイクのところに子どもたちがやって来たり、家族や友達と座るレジャーシートの上でひらひらと紙をかかけたり、楽しそうな光景が広がりました。



撮影-南阿沙美

まるっとみんなで映画祭2022 in NASU

主催 まるっとみんなで映画祭実行委員会

協力 GOOD NEWS、チェコセンター東京

後援 那須塩原市、那須町、那須温泉旅館協働組合、公益財団法人栃木県観光物産協会

# 上映ワークショップ実施レポート

『PAPER?/かみ?』完成後、以下の施設等で上映ワークショップを開催しました。

- 1 社会福祉法人 印旛福祉会 いんば学舎・陣屋 (千葉) [2022年10月28日]
- 2 社会福祉法人 わたぼうしの会 たんぽぽの家 アートセンター HANA (奈良) [2023年1月7日]
- 3 ほっちのロッジ お出かけDAY! (長野) [2023年1月21日]
- 4 社会福祉法人 愛成会 メイプルガーデン (東京) [2023年3月17日]

# あなたもやってみよう 『PAPER?/かみ?』 上映会とワークショップ



施設にいる利用者さんのことや、  
施設にある日用品を思い出しながら、  
楽しみ方を考えてみる

音をつくってみる、かんがえてみるのを、おもしろがりそう

↓

**いろんな日用品で音をつけるワークをしてみよう**  
→参考:たんぼの家(p.28)  
「どのシーンがおもしろい?」一緒に話すことがだいじ

アテレコで効果音をつくる

おどったり、からだ動かすのが好きな人が多いな

↓

**紙だけでやってみよう**  
→参考:いんば学舎・陣屋(p.22)、愛成会(p.40)  
「声」と「からだ」を使って楽しむ

紙をやぶりながら、踊ってみる

障害のある方々も子ども、  
いろんな人たちが一緒に参加できるようなイベントがしたいな

↓

**障害のある人もない人も一緒にたのしんでみよう**  
→参考:長野(p.34)、那須(p.18)  
→参考:那須の記録動画、長野レポート  
上手い下手がないのでみんなが楽しめる

終わってから録音をきいてみてよ

ぜひ、あなたなりのやり方を発見してみてください